

研究会・シンポジウム報告

2013年11月25日(月) 定例研究会報告

テーマ： 現代ベトナムの経済事情

報告者： チャン・クアン・ミン氏

(ベトナム社会科学院東北アジア研究所所長)

通訳： ゴ・フォン・ラン氏

(同研究所日本研究センター長)

時間： 15:30～17:30

場所： 生田校舎 社研会議室

参加者数：約20人

報告内容概略：

チャン・クアン・ミン博士は、本学社会学研究所と交際交流協定を締結しているベトナム社会科学院東北アジア研究所所長であり、本学への表敬訪問に合わせてご講演をお願いした。使用言語はベトナム語で同研究所日本研究センター長のゴ・フォン・ラン氏に通訳をお願いした。

講演の内容は大きく三つに分かれ、①1986年以降の「ドイモイ」(刷新政策)による経済概況、②ベトナム経済の諸問題、③その解決策、であった。

①「ドイモイ」以降の30年間は急速な経済発展の時代である。ほぼ毎年年率5%以上の経済発展を遂げ、一人あたりのGDPは90ドルから1750ドルにまで増加した。また第一次産業に就業する人口が減少し、第二次産業就業人口がその分増加した。第三次産業の割合に大きな変化はない。また貧困者の割合が1986年には人口の約半分を占めていたが、2012年には8.5%にまで減少させることが可能になった。②こうした経済発展の一方で、今日のベトナム経済は7つの問題を抱えている。それは経済成長率の停滞、国営企業の非効率性、環境破壊、教育問題、汚職の蔓延、模造品の広がり、食品の安全性の問題である。③市場経済のもたらす負の側面の原因は、経営者たちの利潤追求姿勢などがある。今後は法制度の整備、国民に対する教育と啓発、市場の積極的な管理などが必要とされる、という結論であった。

講演の終了後、産業構造の変化と生産力について、ドイモイ以降の貿易収支についてなど積極的な質問が相次ぎ、ベトナム経済が安定的に成長するための方策について意見が述べられた。

記：専修大学人間科学部・嶋根克己